

23/6/16 第1回名古屋市障害者施策推進協議会
名古屋市民オンブズマンによるメモ

13:31

健康福祉局障害企画課長大垣

傍聴者 6名 1人来ていない

委員総数 17名

柏原、北村は欠席

当日配布 名古屋城バリアフリーに関する市民討論会

名古屋城が座っている

様々な障害者出席

平松健康福祉局長

お詫び 6/3 バリアフリー市民討論会

差別発言があった

市職員が発言制止できず、正すことなかった

差別を受けた当事者の気持ちを察する

報道 いかり、悲しみ、苦しみ 言葉で表現できない

差別はあってはならない 遺憾 検討会で起こった

障害者差別 心よりお詫び

同じ人としてどうして感じられなかったか

差別の所在 伝えないといけない

研ぎ澄ますよう、人権担当局とともに取り組む

名古屋城総合事務所職員も来ている 説明させる

昨年度から 解消推進条例

大垣課長：瀧会長にまかせる

瀧：大変なことが起きた 心を痛める人も多い

当初の議事内容とは変更する

皆さんの発言時間をとりたい 進め方

差別解消条例、障害者基本計画

事案を受けて、当然加筆修正が必要

性格に整理し、課題について条例改正、基本計画 考えたい

バリアフリー説明をしていただく

問題の対処状況 経過説明 事務局

質疑

それぞれの立場 今回の立場でどう受け止めているか

推進協として意見をまとめて市長に渡したい

場所の時間制限 16時半終了予定

報道機関 カメラに抵抗 お知らせ頂きたい よいか

撮影時ご配慮を

議題と資料ページが前後

上田所長：私どもが開催 市民討論会で多大なご迷惑をかけた 深くお詫び

(2人頭を下げる)

参加者 差別発言を含む不適切発言

市の対応 重大な 深刻な事態を引き起こした

いたらなさ、不徳の致すところ

事件によって、被害者深く傷つけ、ご心痛 謹んで陳謝 誠に申し訳ない

(2人頭を下げる)

要因検証、二度と起こさぬよう奇禍として進めたい

ご指導お力添えを

担当より説明

小鹿主幹：座って説明

資料 名古屋城バリアフリーに関する市民説明会

アンケート概要

調査対象

抽出方法

調査期間

回収数、回収率

参加人数 36人(申し込みは56人)

実際には36人来た

討論会 有識者のコメント及び質問への回答

質問意見用紙をもとに有識者や市から回答

参加者からの意見

市長あいさつ

不適切発言、当局の対応

制止しなかった 注意喚起しなかった 謝罪もしなかった

事後の対応

関係者に謝罪の意を伝えた 直接謝罪はまだ

討論会参加者へお詫び文郵送

今後の対応
再発防止
今後の討論会の調査・検証

瀧：質問あれば手をあげて

牛田：資料（３）差別的表現

平松局長「差別発言」

受け止めて和らげる？

名古屋市のバリアフリーの対応部署はどこか

障害部署

そのあと「名古屋城問題は別」

市の担当部署は果たせない

ほとんど技術関係の人 建物 作りたい進めたい人

長い期間 名古屋市のバリアフリー考え方、情報 精通していないと思う

技術関連はふーん、バリアフリーの説明 無理があるのでは

あれは別これは別 背景にあったと思う

局長 障害部局参加していた その人たちがならないように発言制止 なぜできなかったのか

ワークショップ 人の話を遮らない、否定しない

事前にルールとして示して開催努力

こういう会議 ノーネクタイでごめんね、いろんな障害 大きな声でゆっくり

事前に通知 ルール

会の運営 もう少し検討していただけないか

ネクタイはどっちでもいい

人の話をきちんと評価する

会議の運営 見直しを

マスコミの人が多くみえた できるだけ名古屋市と障害者が対立構図にならないように

瀧：観光文化交流局の人+福祉の人

小鹿主幹：差別的発言ではなく差別発言 お詫び 不適切

技術人間 バリアフリーについても市研修 理解して対応

考えられないではない

障害福祉部 バリアフリー担当 榊原

バリアフリーの担当部署 障害福祉部

一定技術的な部分 名古屋城のバリアフリー議論 背景
考え方の部分 市職員で理解できていたか
力を入れて進めていきたい
討論会 私が出た 傍聴
差別用語が使われた 不適切は認識
対応 何もできなかった
個人の問題 きちんと反省
一般的な会議で起こらないように 今後市を上げて行われる

瀧：また後で質問

橋井：データ 脊柱にする
質疑の後
データで来ていない 観光文化交流が■■■だったのか
木造復元 障害者対名古屋市長にはしてほしくない
マスコミ 厳しく訴えたい
だれだって上がりたい
外国人も
意見交換をしてきた
障害者連絡協議会会長している
アンケートで自分の都合のいいほうにする 賛成しない
本当に昔のまま？現代の装置 電気、階段かいて→書いてない
参加する 1億円階段を体験させて→やらなかった
目は悪い 足は達者 あれを5階は大変
エスカレーター、エレベーター 使わない健常者いない
障害者いても先に行く
市民討論会 後程聞いた 差別発言 言われた人 知っている
人間の尊厳を砕かれたと思う
私もそこにいたらそうなると思う
止められなかった 本来対応要領があるはず
マイクを取り上げるのは簡単
意識のかけらもなかった 大勢の前にさらした
市長の名前がしっかり出ている
市長自らが差別を許した 差別ではなく「人権無視」
即刻第三者委員会なりしっかりしないと解決しない
中途障害で社会復帰 引退された
社会復帰するには多くのバリアがある

やっと人間らしくなった→同じ人間から差別
連絡つかない 当然
私なら市長が来ても会いたくない
これをどうしていくのか
対応要領 職員読んでいない
担当は読んでいるという
千種の仮庁舎 近くに信号 音響信号機ない
「あなた方が何も言わなかった」それでいいのか
鶴舞公園 検証ができた 障がい者と話し合うのが前提 やってくれなかった
名古屋市としてこの差別 どのように考えているのか
今後どうするのか いままで健康福祉局頑張ってきた
裏切った対応 できなかった
しっかりと考えていただきたい

瀧：意見を言っていた

小鹿：重たい言葉をいただいた
いたものとして差別発言 止められなかった 申し訳ない
対応要領知っていた どのように対応すべきか把握できていなかった
結果を引き起こした
市民アンケート意見をいただいた
裏切ってしまい申し訳ない
反省してどうすべきか認識する
テキストデータ 事前に作成したが、お手元にわたってないのは申し訳ない

障害企画課長：障害企画課から発送したつもり
こちらの責任

橋井：確認

榊原：これまでの名古屋市の先輩方積み上げてきた福祉
今後どうしていくか
事案検証 議題としては差別解消条例検討

瀧：次の質問
斎藤さん

齋藤：わっぱの会

質問 今回の差別発言市民討論会

名古屋市主催 前代未聞の出来事 誰もが思う

全国の行政行う集会 露骨な差別発言、止められなかった

市長が同席「活発な議論であった」市長は差別主義者そのもの

お詫びしますといっぱいいただいたが、それを聞きたいわけではない
なぜ起きたのか

6/3 市民討論会 偶然起きたのか？

まったくそうではなく、5年前からずっと引きずってきた

市長自身何も学ばず、差別発言を引き出し何も思わない

市長は差別用語については「不適切だった」陳謝

「言論の自由」を強調 必ずしも止められない

5年間の経緯を振り返ると、付加設備の方針 2018年5月

エレベーターをつけない

最新設備でバリアフリーを実現する

「最上階からの眺望を保证する」

1階でどうのこうのではない

市長「1階で映像を見る」を含める

「本物を見ることがバリアフリー」

「合理的配慮は1階まで」

差別をなくすために合理的配慮が必要 条約、法、条例

5年前

差別とは何か、合理的配慮はなにか理解していない

障がい者基本計画 5年前 名古屋市もうたっている

名古屋城明らかになっていた

基本計画 表現してと申し上げた→1行も乗らなかった

市「市長が認めてくれない」しかたない

甘かった 名古屋市は市の基本計画としてバリアフリー推進をうたっている

名古屋城ではいわなかった

5年間の矛盾が差別発言を生んだ

やること自体がおかしい

5年前から国際コンペ、最新技術でバリアフリー

きっちり話し合う 最優秀者が決まって小型昇降機 実際はエレベーターをつける

名古屋市が打ち出した

もう一度市民から意見を求める 後戻り

市長「本物復元」応援者の発言を引き出したい

結果が差別発言

質問 市民アンケート、討論会 エレベーターなくていい意見
事前に質問もらっていた
対応できない、すみませんではなく、
市長はわざとさせていたのではないか
どう思っているのか、やったこと自体が間違い
市民の意見を戦わせて 対立させる 5年前も問題
乗り越えてバリアフリーの公共空間を作る
市のやり方おかしかった
理解できない市長を市はいさめてこなかった

瀧：ご意見、振り返り

斎藤：観光文化交流局

小鹿：市民アンケート、討論会
実施した経緯ご質問
公募で昇降技術 昨年 2022 年 12 月
市議会で報告 裏で市長が「つけても 1 階 2 階まで」発言
市民からも意見をいただいた
市民の意見を一度聞いてみたい 市民アンケート、市民討論会を決めた
最低 1 階昇降技術を設定する
それ以上より上層階をめざす
討論会実施 応募全員に参加いただいた
このような差別発言、不適切発言 予見できなかった
大きな反省点
わざと呼び寄せたわけではない
発言者の内容を聞いていた
不適切だとは思った 止める、さえぎるまではできなかった
お詫びする

瀧：討論会の意味 どういう整理
公 議事録が公表していない
youtube 非公開
マスコミベース
公開する予定は 記録、整理

小鹿：ホームページで公開は追いついていない

どのような会議かお伝えさせていただくことは考えている

瀧：どういう意義があったか

小鹿主幹：市民アンケートや討論会で意見を集める
市長に判断していただく

上田所長：意義

昇降技術の設置 市の方針の参考

大変な事態を引き起こした

当初の目的かどうか疑問が残る

健康福祉局、人権担当部署 討論会そのものの検証も進める予定

初期の目的に沿ったものか 検証したい

会議の内容というより会議の検証

斎藤：質問が悪かった？

意図しない結果と発言

アンケートをすることで、意見を呼び寄せた

バリアフリーを実現しようとしてやっていくはず

あらためて「決定した設備をつけなくていい」

障害部局からの回答も

土田：関連 2点

頭が悪いのか

6月3日 こういった会議ある 不適切発言 差別言動あった

なにが差別、どんな言動 全員知っているのか

この方をお会いする 6/16になってもお詫びしていない

この人の考えをひっくり返す？

瀧：斎藤委員に対して答えて

健康福祉局：財政福祉委員 同様の趣旨

この会議自体 当事者冒頭からエレベーターつけてくれではなく、

外付けエレベーターつけて

受け止める方 そうは受け取っていない

会議の進行 瀧先生がコーディネート

論点の違いを指摘する必要

会議そのものが不適切とはいいがたい
進行、謝罪もないのは不適切と委員会で答弁

小鹿：アンケート自体が反対意見を呼び込んでいるという趣旨
とるまでは様々な意見 賛成反対
アンケート 両方の意見がでるのは想定

瀧：斎藤委員答えはなかなか出せない
後戻り、反対派の意見を取り入れる場所
受け取り方とはあった 意見書で書かせていただこうと
取らざるを得ない
とめていいか

濱田：名古屋城担当 障がい者団体まわって説明
上まで上がりたい気持ちを分かってくれた
今回残念
市長「お詫びはしたが言論は自由」
「差別発言があったなら申し訳ない」
差別発言はあった 分かってくださっていない
障害者 いつも同席 分かってくださっていると思う
市長がバリアフリー、障害者、差別はいけない
どれくらいわかっているか 疑問に思う
分かってくださっているなら「昇降機1階までならいい」いわない
5階まで行ける技術 喜んでいた
あの発言で振出しに戻った
市長と対話したい
今後の対応が大事 今の時点でどのようにすればいいのか 決定ではないが
案を聞きたい

小鹿主幹：きちんと検証 そのうえで今後のことが決まる
どう再発防止 持ち合わせていない

瀧：福祉

局長：スポーツ市民局が検証する
健康福祉局もかかわる 検討会の問題の検討
出てくる内容

障害者差別、人権
職員へのしみこむくらいの研修
市長の発言 表現の自由 市長に申し上げている
意見の多様性を前提 議論を通じて
「人として一方的に否定」不適切

瀧：今の段階

笹川：再発防止大事
経緯を明らかにするのも大事
謝罪もなく終わった
差別だと認識したのはいつか

小鹿主幹：発言のどこからどこまで不適切
当日に認識はできなかった
差別発言 どの部分が差別表現だったか 認識するにいたらなかった
当日の会が終わった後、記者から質問、意見
その段階である部分について差別用語
全体として不適切発言と指摘
申し訳ないが、その時点で参加者の発言が不適切と認識

瀧：新井

新井：テレビのニュース報道
記者会見市長「発言を止めるのはおそろしかった」と聞こえた
観光文化交流局 恐ろしかったの意味は
その場で止めるのが恐ろしい 同じような感覚があったのか

小鹿主幹：個人の受け止め
おそろしかったという感覚は持っていない
参加者 それぞれの思いをもって発言
止めていいのか？思いが至らなかった

入谷：重複 言ったかも
市民討論会はやるべきものだったのか
企画するときに障害ある人が参加
だれも障害ある人がいなかった場合、エレベーター、バリアフリー

話題に出なかったらどういうふうに進めるのか
昨日 データが来た 2 頁だけ
知っている体で話されても知らない人もいる
これだけか
不適切な表現、謝罪行われなかった
今後の対応
2 行だけか
対応要領送られてきた 十分再発防止 書いてある
それを踏まえてどう取り組んでいくか
検証への「協力」ではなく「対応」
説明がたどたどしい
「重たい言葉」なにが重いのか
当日は認識がなかった 気づかなかったのか
あいまいなことばっか 行き違いを感じる

瀧：意見と質問

小鹿主幹：討論会 そもそもやるべきだったのか疑問

このような事態を引き起こしてしまい、結果としてはやった意義 なくなってしまった
当初は市民の皆様から様々な意見を頂ける 設定したい
2 点目 車いす利用者 ご参加いただいた
参加されないこともありえた
今回の趣旨 アンケートを無作為 参加いただく
仮に参加されない障害者場合でも、市民の意見を参考にした
実施しようと考えていた
情報量が少ない 再発防止きちんとかかれていない 申し訳ない
協力と書いたが、対応させていただきたい
発言 至らないところ、甘い 申し訳ない
不徳の致すところ

入谷：結果論

こういうこと コンセプトがあっそうやる
バリアフリー しっかりやっていく していただきたかった
そういうふう 考えなかった
意見 このような会議の中で局長陳謝
これで終わりにしていただきたくない
集会をする中で市長出てきてくれて、話をする

→直接言葉はなかった
建設的な対話 納得して帰っていった 絶対しないでほしい
エレベーター設置をされる
合理的配慮をしっかりと見据えて

瀧：質問

池山：冊子がおいてあった
平成31年4月1日施行 障害者差別解消推進条例
条例施行者として適格性に欠く
精神障がい者 偏見と差別に苦しんできた
こういった会議 なさけないが空理空論に思う
これで終わっていいのか 残念でならない
責任ある再発防止策を内外に明らかに

瀧：ご意見
順に

橋井：河村市長の発言を youtube みはした
文字化して もっと確信犯となる
どなたか事務局でやって

濱田：再発防止 今の時点で意見が出てほしかった
一つでもあれば 出なかったのが大変難しい
いた人はどうすべだったか
今後どうすべきか
意見をばばばっていう人を止めるのは勇気がある
相当の訓練が必要
想定したときに止めてみる ロールプレイング

池山：障害者差別解消推進条例はなんだったのか
4年間
局長にコメントを

高嶋：あさいちのニュース 食事しているときに見た
誰も助けてあげないのか
差別発言 言葉にならないよりあきれ

民間がやっていた討論会ではなく名古屋市が主催
なぜ止められなかったのか
名古屋市と話をし、理解していただいている 信頼
車いす 1人だけの出席だったかも
どういう風になるかわかりますよね
集中攻撃されることは分かり切っている
「だれか出てもらえないか」
手が出せなかった 障がい者団体 出席すれば止められた
再発防止 2週間 何も出てきてないのはおかしい
名古屋城担当だけでなくみんなで
「差別発言ですよ、やめて」強制退室してもいい
ピックアップ映像 内容が分からない
ロールプレイング 練習しないとできないのか
心が痛まなかったのか不思議
いろんなことを 中途の方 どんどん乗り越えて 最後にこれかよ
お詫び文郵送 内容も教えて頂けたら

岡田：最初からかかわってきた 5年
階段も上がった、ワークショップ 先進技術も
学識経験者 昇降機がいいのでは
よかったと思ったら、「市民討論会をする」
逆戻りした
障害者も入ってみんなで「小さいけど昇降機でいいのでは」
車いす 発達障害は外目ではわからない
行動、言動 ほかの人とは違う
日ごろから言葉で攻撃を受けている
ガイドブックがあるように、平成31年にできた
職員 推進条例がいきわたるように
今後の大きな宿題

斎藤：差別は共通理解があるのか
ずうずうしい、我慢せよ、メンテナンスだれが払うんだ
認識して
障害者であろうとなかろうと、人権が守られ
障害があるがゆえに不当な扱い
解消することが決まりで決まっている
「金がかげられるか」

さいとうまこと「1500万円もかかっている」差別ヤジ

22年前のことと全く同じ

市長が認めてやられた 何にも前進していない

差別をなくす 向かっている

推進条例改正する

それなのにこんなことが起きる

「再発防止には市長を変えるしかない」

職員が苦慮されているのはわかる

なぜ止められないか 市長が認めているから

差別はいけない 市長が分かっていないのが名古屋市の一番の不幸

牛田：当日に、バリアフリー担当傍聴参加された

おかしいのではないか

市横断 傍聴か？

入谷さん 当事者参加がもしなかったら「やむを得ない」

職員対応要領7頁 不当な差別的取り扱いとは

積極的改善処置 こういうのがある

当事者が参加しない討論会はありえない

「いなくてもしょうがない」おかしい

推進条例4ページ5「話し合いが重要」これに違反した

こんなに起こるような重大な事件が起こったと認識

王子田：記事がでて悲しい

精神分野 障害理解は根深い偏見

大変なことになるのかな

討論会 事前の準備 どこまでされていたか

推進条例ガイドブック どこまで条例伝わっていたか

会議の概要 ニュース、新聞しか目にしていない

記録 ぜひ会議を通してでも出して

バリアフリーの実現に向けて検討

ハード面 ソフト面の部分

障害特性に合わせた名古屋城を

入谷：差別発言 エレベーター問題もそうだが、

名古屋市役所の中 観光と福祉以外の課 消防とか

この問題 差別問題 どれだけ知っているのか

ある通りすがりの人 「エレベーターつかないのか」

市役所の中でも温度差 いろんな課 差別を見据えないと
いろんなところで発言 飛び交うのでは
バリアフリー 独り歩きしている

「障害者のためにする」

高齢者、ベビーカー 全員が出やすく社会参加する

防災 南海トラフ この辺だけが自信がない

巨大地震が起きたとき、差別は起こりうること

どう対応するのか

自分で身を守らないと

差別が生まれるのではないかと怖い

昨年8月権利条約審査

リトアニア人「人権を守るためには障がい者の社会参加と自立生活が必要」

でやすく、安心して差別ない社会で生活

名古屋市役所の中で、問題を重視してしっかり討論して

新井：討論会の中 発言制止できなかった

差別用語の指摘はできたのではないかと会場

40歳なかばで視覚障害

見えなくなったことより、社会に出たときに周りの人のコミュニケーション対応

地下鉄職員 「大変ですね」優しい声かけ「一緒に出掛ける家族はいないか」忘れられない

必ず点字ブロックをつかって地下鉄に乗った

いつのまにか外されていた

「国のガイドラインに合致している」

考えていただいている

基本計画、福祉計画、条例、対応要領

基本的だが、「合致していればいいだろう」

国土交通省「心のバリアフリー」

なにか言葉を発することができないか

そこから出発を

笹川：エレベーターをつけるかつかないか 以前の問題

市の差別、バリアフリーの考え方 顕著に表れた

つながるなどと思う 熊本城 最初からエレベーター設置前提

根本的に考え方が違う

差別とは何、バリアとは何

考え方が違っていただけではないか

菊池：自分が言われたらどうなるか 傷つく
それを言ってしまうと気分悪くならないか
言葉遣いに気を付けて
母親が足が悪い もっと考えて

土田：飛ばされて悲しい思いをした
新聞、テレビで見たよ
私は触れることがない
いつどこでなにがあったのか
みんな知っているが私は知らない
こういうこと こうしていこう

瀧：北村さんペーパー代読
「40年現場で障害者衣食住をともにしてきた。
『土地の値段が下がる』『治安が悪化』差別がある。
地域の人と交流
すべての人 法律制定
残念ながら市長対障害者、市民対障害者と取り上げられること
敵味方ではない
継承、発展させるべき
差別的発言 名古屋市行政 深く反省して
当日謝罪が必要不可欠
何が間違っていたのか
様々な立場の協力が必要
当日つらい、やるせない
敵味方の関係ではなく、だれでも安心して暮らせる名古屋を
超高齢者社会 一人一人の問題
差別のない名古屋を
学識の方々

樋口：皆様の意見に同意
個人的な意見 インフラ 社会基盤計画専門
名古屋市は福祉環境整備指針 当事者と一緒に作ってきた
名古屋城だけは時代を逆行 当事者との積み上げも無視
法律もある
率先して差別解消 答えが出ないまま

市民討論会やるべきことか？

バリアフリーは市民が決めることか？

結果を押し付けるアプローチとしかみえない

おかしいものはおかしいとっていい

「部署が違うから、所管が違うから」心のバリアフリーは広がっていかない

条例だけでは浸透していない 結論

推進協の委員 実効性のある対策

早急に対応を検討

世界に誇れる街づくり いろんな人から意見を

鍛冶：最初にニュース やるせない しばらく茫然

市民アンケート、市民討論会 目的はなんだったのか

無作為抽出 その時点で障害のある意見

多様な意見 形になっているのか

設計の時点 障害のある人を排除する構造では

再発防止 どういった意味合い？

討論会 止められなかった 容認 その会が続いた

根本 止められなかっただけではない

条例と合理的配慮の提供義務 実践 考えた上での再発防止

資料 お詫びが書いてある

お詫びだけでいいのか

根本の差別解消 市として取り組んでいく メッセージを発信していただく大事では

発信の在り方 委員、障害、家族だけでなく

広く市民に「差別発言は許されない」発信しないと

行政と参加者だけで終わる危惧

「障害者対市民」疑問

あるないにかかわらず、差別は許されない 発信して

高森：この討論会の問題に矮小化しないで、議論を受け止めて

ももとは市がエレベーターのある公共施設、一般市民に来てください

壊して再建→「エレベーターがない施設を作る」差別

「不特定多数来て」障害者は含まれない

発信すること自体が不当な差別的取り扱い

何年も市長繰り返してきた

せいぜい1階だ

差別を解消するための施策すべき市が差別を助長、固定化した

差別発言も、市長自身が「エレベーターなくても仕方がない」

市民が助長されて「我慢しろ、仕方がない」
市職員も止めるのは難しい
お詫びする、不適切 いくら言っても差別を固定化したのはぬぐえない
このまま名古屋城計画変えない 「わがまま、ずうずうしい」 いうとおりになる
市民「差別してもいいんだ、しょうがない」メッセージ
お詫びだけでは変わらない
①はっきり市から「エレベーター—設置前提」市民に発信するのが前提
②どうして方針が変わったのか
「障害者から言われたから」差別偏見が残る
自らが間違った
③今日の会議 意見が言いました 記事するかも
会議自体も通過した スルーしたことになりかねない
協議会が「施策後退協議会」にならないように発信すべき
優生保護法の問題をまた繰り返すだけ

手嶋：再発防止 検討会

個人として尊重 バリアフリーテーマ討論会
目的に加えて、手法自体も検証を
アンケートについて述べた
無作為抽出 くじ引き民主主義 討論民主主義
一部の行政 会議を数多く開催され始めている
このような手法 メリット 議論が活発になる
デメリット 進行が不適切、止められない状況
くじ引き民主主義 討論形式 すべての個人尊重 適切かどうかを検証を

瀧：最後意見

案件について、情報公開が悪い
私たちマスコミで知る、はっきりわからない
民間団体ホームページで探して情報を得る
市の検討プロセス 情報公開積極的に
被害を受けた当事者接点をもてていない
予測はできなかったわけではない
差別発言おいておいても、エレベーター—否定的意見 多数でることはわかっていた
ややもすると権利を害される人たち 予防
そういうことが起きたときにどう保護するか
必要な介入
その方の権利 回復支援をしないと

予防、保護、回復支援 具体的に
差別発言をした人 どれくらい意識を持っているのか
情報公開 この部分は差別発言
つかわれちゃいけない用語 ややもすると死語 みすごされる
都市部職員 差別用語 徹底して
発言があったが、バリアフリーを市民に決めさせるのが問題
市の人が計画を立てる上で障害者施策、バリアフリーの意味 見直して
施策を
ぜひ今回もまとめて意見書を出したい
言い足りないこと 伝えて
意見を聞いたうえで名古屋市から発言
観光文化交流局から

上田所長：委員、学識者 一人一人のご質問、ご意見、ご指導
不行き届きを痛感
事前の準備 十分な吟味がなされていたか
知見が不足していた
被害をあわれた方、障害者 立ち位置、やるべきこと
当日差別発言気づいていたが、しっかりとした毅然とした態度で抑止できなかった
市長言動指摘 私から申し上げにくい、市長の言論に対して「忸怩たる思い」がある
十分な結果に
昇降機 バリアフリーの議論 十分でない
観点について 市長、副市長と十分な協議を重ね、極めて重大な事態
次の名古屋城の事業の糧になるように

健康福祉局長：それぞれの立場からご意見
差別の問題 条例に関して 手元に対応要領 「はじめに」
「市職員が法の趣旨を理解し」名古屋市長 河村たかし
情報公開が不十分
市長、副市長、局長2人、部長複数人
差別の認識がない中終わった
どうして行われてしまったのか
市の中に浸透していない
検証についても、事象だけでなく
我々は障害がある人の立場
スポーツ市民局 人権の立場
取りまとめ 市長副市長をはじめ、関係者に説明

バリアフリーの部分 対応すべきではないか
「バリアフリーは市民が決めるものなのか」感じている
関係の方々 しっかり伝えたい

瀧：ありがとう

意見書を取りまとめたい
文案を送りたい その際はよろしく
あと 30 分で 2 つ
今日は完結できない
説明と、募集 あらためて今回のことを受けて 近いうちに開かないと

16:10

障害企画課 水沢：お詫び申し上げる
支援会議
合理的配慮が民間義務化

瀧：説明時間確保できなかった
事務局はあらためて意見を募集する時間をとる
次の議題
福祉計画

障害企画課 宮地：議題 1
資料は前の検討段階
この度の事案 修正案を受けて検討したい
資料 3 ページ 基本計画、福祉計画

瀧：1部 2部 3部
承認した方が？
文字は加筆修正必要
承認いただいた
議題 4 読書バリアフリー

障害企画課 坂上：
67 頁資料 3

瀧：質問は

以上ですべて
事務局からなにかあれば

課長：言い足りない思い
お話伺いしながらなにとぞ
十分説明できなかつた条例、基本計画、福祉計画
修正してまた
本日は終わり
11月に2回目予定

16：23